

～用語の説明～

〈あ〉

【赤潮】^{あかしお} プランクトンが異常に繁殖して海や湖の色が変色した状態です。植物性プランクトンが大発生して赤く染まることが多いため赤潮と呼ばれます。

〈か〉

【外套膜】^{がいどうまく} 軟体動物の軟体部をおおう筋肉質の膜。

【岩礁】^{がんしょう} 磯にある岩場のこと。海藻や付着生物が多く、餌をとるにも身を隠すにも魚にとってよい環境になる。

【汽水域】^{きすいいき} 淡水と海水がまじる水域。河口付近をいう。

【群体】^{ぐんたい} ごく小さな個体がくっつきあって生活しているかたまり。

【原口】^{げんこう} 卵からの胚発生初期に生じる原腸の開口部

【後口動物】^{こうこうどうぶつ} 卵からの発生過程で形成される原口側が成体の肛門になり、口は反対側に新しく開く動物の系統

【高潮線】^{こうちょうせん} 海岸で最も高く潮が満ちた所。満潮線ともいう。

〈さ〉

【砂泥底】^{さでいてい} 海底の底質を表す言葉で、砂まじりの泥の海底をいう。

【潮だまり】^{しお} おもに岩の海岸で干潮時にできる海水のたまった所。タイドプールともいう。

【刺胞】^{しほう} 刺胞動物が持っている細胞で、中にはほかの動物を射す刺（とげ）が収まっている。

【成長線】^{せいちょうせん} 貝が成長するにつれて、貝殻の表面にできる細いうねのこと。

【脊索】^{せきさく} 原索動物と脊椎動物の発生途中に背側に沿ってできる棒状の支持器官。終生あるいは幼生期にのみ持つものがある。

【前口動物】^{ぜんこうどうぶつ} 卵からの発生過程で形成される原口側が成体の口になり、肛門は反対側に新しく開く動物の系統

〈た〉

【胎生】^{たいせい} 雌の体内で卵がふ化し、稚貝や仔魚となって対外に出てくる繁殖のかたち

【タイドプール】 潮だまりのこと

【潮間帯】^{ちょうかんたい} 高潮線と低潮線にはさまれた所で、潮が引いたときに現れる場所のこと。

【低潮線】^{ていちょうせん} 海岸で最も低く潮が引いた所。干潮線ともいう。

【頭胸部】^{とうきょうぶ} エビやカニ類では、頭部と胸部の区別ができないので頭胸部と呼ぶ。

〈は〉

【干潟】^{ひがた} 内湾の砂や泥の海底が引き潮のときにあらわれる場所。

〈ま〉

【藻場】^{もば} 内湾や浅い海の海底で海草のアマモ類やホンダワラ類などの海藻が密に生育している場所。魚のよいすみかとなる。